

平成 28 年度理科で遊ぼう会事業報告書

総括と活動一覧

(事業内容)

キリン・子育て応援事業の助成金と、新相模酸素からの協賛金などによって「考える力・実行する力を育てる理科実験支援」を中心に据えた事業を実施した。講座実施機関別に講座の内容毎のクラス数を表にする。カッコ内には 27 年度、26 年度の実績を年度順に比較のため示した。

講座内容	小学校	子ども センター 等	環境情報 センター等	出展形式 (その他の 事業)	合計
モーター	16 (12, 9)		1 (1, 0)	1 (1, 2)	18 (14, 11)
ビタミンC たっぷりなものは？	6 (5, 1)		2 (0, 1)	1 (0, 0)	9 (5, 2)
木炭電池	7 (8, 1)				7 (8, 1)
バルサ紙飛行機	0 (0, 6)	3 (2, 0)	1 (0, 0)	0 (0, 1)	4 (2, 7)
土の生き物観察			1 (0, 1)		1 (0, 1)
飛ぶ種舞う種モデル	2 (2, 0)	3 (4, 2)		3 (4, 2)	8 (10, 4)
プチプチで浮沈子				1 (0, 0)	1 (0, 0)
ゴム動力ヘリコプター	0 (1, 0)	2 (2, 3)			2 (3, 3)
キツツキ遊び		1 (0, 2)		1 (0, 0)	2 (0, 2)
ヘロンの噴水	1 (1, 1)				1 (1, 1)
変身プラスチック	0 (0, 6)	0 (1, 0)	0 (1, 1)		0 (2, 7)
折り紙	0 (1, 3)				0 (1, 3)
ポンポン船	0 (0, 2)		0 (0, 1)		0 (0, 3)
糸電話		0 (0, 1)			0 (0, 1)
自転車のベル組み立て				0 (0, 1)	0 (0, 1)
	32 (30, 29)	9 (9, 8)	5 (2, 4)	7 (5, 6)	53 (46, 47)

28 年度は小学校の授業として、新磯小学校のモーター及び木炭電池の出前授業が新たに加わり、件数としては小学校での授業数が漸増した。その内訳を見ると、5 年生向きにはモーターの授業が増え、6 年生向きにはビタミンC と木炭電池が前年度とほぼ同数で定着している。

小学校高学年の出前授業を別にするると飛ぶ種モデルが相変わらずの人気で小学校でのカルチャースクール、子どもセンターの行事、その他出展形式でのイベントなど満遍なく実施されている。事業規模の拡大は受講児童数にも反映されている。受講者数を 27 年度、26 年度と比較して以下に示す。

講座の実施機関	児童数；28年度（27年度、26年度）
出前授業（小学校カルチャースクール等も含む）	950（846、848）
寺子屋（子どもセンター、児童館）	213（234、200）
環境情報センター、公民館等	83（37、89）
合計	1246（1117、1137）

その他に出展形式の行事として青年会議所による橋本での活動が加わり、参加者が急増、28年度は約550名を数え、27年度、26年度の各200名、300名を大きく上回った。550名のほとんどが飛ぶ種モデルと、28年度新たに加わったプチプチ緩衝材を使った浮沈子であった。

纏めると、28年度の参加児童数の総計は約1800名で、前年度、前々年度の1300名、1400名を大きく上回った。この総数の内で特筆すべきはモーターの参加者で、総数は555名、準備したモーターキットをほとんど使いきった（ちなみに前年度のモーター受講者数は367名であったので28年度は飛躍的増加である）。その次に多かったのは低学年向きの飛ぶ種モデルで、443名、木炭電池が201名、浮沈子が約200名、ビタミンCの滴定が153名である。ただ残念なのがY字振り子の希望が28年度も出なかったことで、振り子現象、もう少し広げて言うと振動現象はとても重要な基礎事項で、児童にとって考えることも多いので、是非経験させたい。もうひと押し足りなかったのかもしれない、今後さらに勧めてみたい。

（会の運営）

第一回役員会

日程 2016年5月21日～5月24日

場所 ネット上のメールによる

出席 甲斐田博高、加藤順康。金子輝二、田中皓、中川新一、中山英夫、矢野英明

総会の席で役員間で了承していた代表 田中 皓、副代表 甲斐田博高を確認。

執行部としての運営委員の選任をした。

生産管理（モーターを除く教材一般全般）	中川新一
モーター作成管理	中山英夫
p p t、教材資料作成管理	徳満真幸
会計	長谷川良枝
渉外	山崎徳嘉
広報（HPを含む）	木村久子
事務全般	田中皓

なお長谷川さんの体調がよくなるまで当面、会計役は田中が代行する。

第二回役員会

日程 2016年7月13日～7月18日

場所 ネット上のメールによる

出席 役員全員

1) 運営委員会提案による運用規程の改定案を一部字句を修正して承認。

趣旨;28年度受けるキリン・子育て応援事業では、従来支払っていた報償費の支払いを認めず、交通費は認めるということなので、交通費の規定を運用規程に加える改定案が運営委員会(6月17日開催)で作成提案された。

骨子;運用規程1;正会員、賛助会員、協力会員の定義であったが会則に取り込まれているのでこれを廃止し、新たに交通費の規程とした。事務所からの公的交通手段による往復運賃で充てるものとする。

運用規程2;報償費の規程で、外部資金に依らない事業で収益を伴う場合に支払う。

運用規程3;ボランティア保険の適用範囲を正会員、賛助会員に限り、協力会員はボランティア保険が必要な場合は自ら負担する。

運用規程4;変更なし(運営委員会に関する規程)

2) 会計担当の運営委員の差し替えに関して。

長谷川さんの療養にもう少し時間がかかること、代表が会計を代行し続けるのは好ましくないことから、長谷川さんから佐藤アツ子さんに交代することを提案了承された。

第三回役員会(拡大役員会)

日時 2017年4月22日—24日

場所 ネット上のメールによる

出席 役員、運営委員(事務局)

キリン・子育て応援事業の助成事業「考える力・実行する力を育てる理科実験支援」の実施報告書、収支決算書の点検をした。監査は4月29日に行う。

第四回役員会(拡大役員会)

日時 2017年4月24日—26日

場所 ネット上のメールによる

出席 役員、運営委員(事務局)

28年度の全事業の報告と会計報告の点検をした。

第5回役員会

日時 2017年5月12日 10時

場所 大野北公民館オープンスペース

出席;加藤順康、金子輝二、田中皓、中川新一、中山英夫。委任状;甲斐田博高、矢野英明

29年度総会の議事決定

第一回運営委員会

日程 2016年6月17日

場所 星が丘公民館

出席 田中、徳満、中川、中山、山崎

欠席 木村、長谷川

前述の運用規程1、2、3の改定案を作成した。

第二回運営委員会

日程 2016年10月7日～8日

場所 ネット上のメールによる

出席 運営委員全員

作業会出欠掲示板のあり方を検討したが、続けて現在の形を継続することにした。

第三回運営委員会

日程 2016年11月11日～12日

場所 ネット上のメールによる

出席 運営委員全員

事務局支援という立場で、長谷川さんに講座に参加する講師の募集と講座参加者、リーダーの決定の役割を分担いただく件を了承。

第四回運営委員会

日程 2016年11月27日

場所 ネット上のメールによる

出席 運営委員全員

桜美林大学の二人の学生の受け入れ了承と、事前研修を含むスケジュールの確認。

運営委員による役割分担は**教材作成の管理**は従来同様スムーズに行われたが、事務系についても**会計**だけでなく、**広報、講座実施講師の募集及び決定**を分担する会員が決まり、ようやく組織らしい兆しが見えてきた。

(作業会)

ppt ファイルの再検討、授業内容の再検討が行われた。いろいろの治具開発が盛んであった。木炭電池については、“燃料電池”という位置づけに疑問が残ったままであったが、新たに木炭電極に外気を遮断する気密カバーを付けて発生ガス（酸素ガス、水素ガス）が外に抜け出さないようにした実験を行った。その結果電源としては、単に電気分解によって木炭電極にたまった電荷

の放電だけでは言い難い要素があることが分かり、更に詳しい実験を新年度において行うこととなった。活発な議論がなされたことはとても良いことであった。

モーターの軸受け、固定子板、回転子コアに用いる鉄板の切り出しに関しては、押切の器具を借用できることになり、メックス神奈川さんの厚意に頼っていた懸案事項が解決し、有り難いことであった。

(会員の異動)

正会員は27年度は23名であったが、28年度は21名である。お一人が退会され、もう一人は協力会員となられたことに因る。

賛助会員は27年度2名、そのうち1名は28年度はやめられたが新たに賛助会員となられた方が1名おられ、28年度の賛助会員は2名であった。

(今後の課題)

28年度は麒麟・子育て応援事業の助成金、新相模酸素の協賛金、それまでの余剰金が裏付けとなって、28年度の事業は実施されたが、29年度は外部助成金はない。しかし28年度の繰越金で29年度は乗り切れる見込みである。ただ、その先はないので、30年度に向けた外部資金の獲得を目指して努力する必要がある。

毎年のことではあるが、会員不足は悩みの種で、今後も会員を募る努力が必要である。